

オレンジリボン運動の取り組み

宇部フロンティア大学短期大学部保育学科
金子凜美 久重安里紗



オレンジリボン運動は、「**こども虐待のない社会の実現**」を目指す市民運動です。

オレンジリボンは、そのシンボルマークであり、オレンジ色はこどもたちの明るい未来を表しています。

このオレンジの色は里親家庭で育ったこどもたちが「**こどもたちの明るい未来を示す色**」として選んだといわれています。

オレンジリボン憲章

私たちは、子どもの成長と発達を支援することが社会全体の責任であることを自覚して、次のとおり行動します。



- ①私たちは、子どものいのちと心を守ります。
- ②私たちは、家族の子育てを支援します。
- ③私たちは、里親と施設の子育てを支援します。
- ④私たちは、地域の支援を拡げます。

私たちは、子ども虐待のない社会を目指します。

オレンジリボン運動の起源

2004年、栃木県小山市でおこった、3歳と4歳になる二人の可愛らしい兄弟が父親の友人から再三にわたって暴行を受け、息も絶え絶えの状態、橋の上から川に投げ込まれて幼い命を奪われるという痛ましい事件がきっかけ



2005年、栃木県小山市の「カンガルーOYAMA」という団体が、二度とこのような事件が起こらないようにという願いを込めて、こども虐待防止を目指してオレンジリボン運動が始まりました。2006年より「児童虐待防止全国ネットワーク」が総合窓口を担っています。

わたしたちにできることを

子ども虐待の防止は、保育者を目指すわたしたちにとって、重要なテーマです。子ども達からのSOSにいち早く気付いて、私たち保育者や周囲の人が助けることが大切だと思っています。



活動開始

保育学科一年生が、沢山の方に受け取ってもらえるように一つ一つ丁寧に作りました。



宇部フロンティア大学・宇部フロンティア大学短期大学部 魁藤香祭にオレンジリボンコーナーを設置しました（10/20）

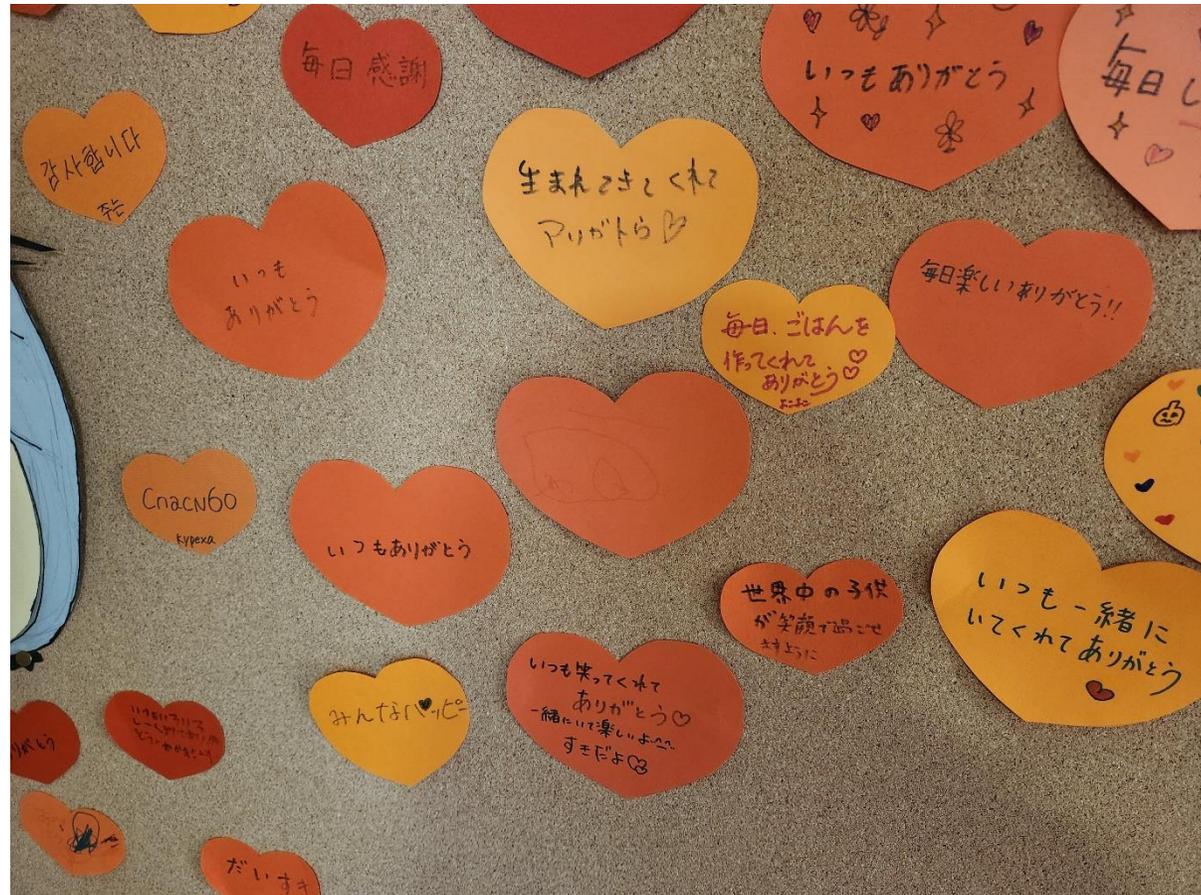
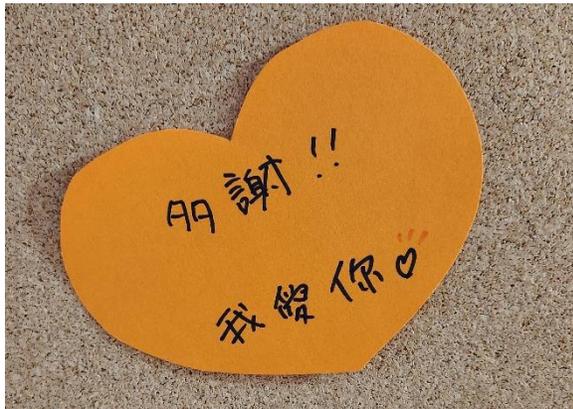


用意したチラシをたくさんの方に見ていただきました！

オレンジリボン運動の活動の一環として、感謝の気持ちを書くメッセージにもいろいろな方に参加していただきました。どの方も自分の大切な人に向けてのメッセージを真剣に書いていました。



これはその一部分です。
日本人だけでなく他の国の方にも参加していただきました。



第73回宇部まつりに出展しました (11/3)



活動を終えて

- 今回の活動を通して、オレンジリボン運動についてより深く学ぶことが出来ました。また、オレンジリボン運動について知らない方にも知っていただくことが出来ました。しかし、中にはあまり興味がなくスルーされる方やチラシの受け取りを拒否する方もいました。そういった方々にも関心を持ってもらうためにどうするのか、といったことが今後への課題だと感じました。
- 最近では少しずつオレンジリボン運動について知っている方が増えてきており、良い傾向なのではないかと思いました。これからも虐待を減らせるようにオレンジリボン運動の活動を広めていきたいです。